



社会リハビリテーション学科

社会福祉と福祉用具とユニバーサルデザインが学べる

ハート(ひと)とハード(もの)で
福祉を拓く社会リハビリテーション

ハート(ひと)を学ぶ...

誰もが安心して自分らしく生きることを願います。その願いを支えるため、生活上の問題がある人にどのように接点を持ち、どのように必要とするサービスにつないでいくか、さらにはサービスをどのように運営していくか(知識と技術)を、ひとと深く関わりあう演習や講義、現場での実習を通して学ぶことができます。

ハード(もの)を学ぶ...

障害や加齢によって自分でできないことが増えていきます。福祉用具やユニバーサルデザインの道具を用いることで、できなくなったことができるようになります。福祉用具を見て触って、まさに福祉用具を使ってかけて自ら問題点を発見する、住宅の中で福祉用具を用いて生活してみるなど、実践中心で学ぶことができます。

神戸学院大学総合リハビリテーション学部では国家試験受験資格を取得できます。
社会リハビリテーション学科:社会福祉士、精神保健福祉士
医療リハビリテーション学科:理学療法士、作業療法士

<http://www.kgu-sr.net/>

第9回

気づきを築く ユニットケア

in 神戸

全国実践者セミナー

2010年 3/13(土) ▶ 3/14(日)

会場:神戸学院大学 有瀬キャンパス
(〒651-2180 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬518)



「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」は、2002年の岡山県笠岡市をスタートに、これまで全国7か所で全8回が開催され、毎回、多数の実践現場から、日々の取り組みが報告されてきました。

ひとくちにユニットケアと言っても、その取り組みは施設によって実にさまざまです。既存施設を活用しながら、試行錯誤を重ねてようやくユニットケアに至った取り組みがある一方、真新しいユニット型のハードが整っていないながら、ケアの質が追いつかず、職員もお年寄りも疲れてしまった例もあります。

このセミナーは、「ユニットケアの基本は現場の実践にある」との考えから、現場のスタッフがケアのあり方やスタッフの育成、施設と地域との連携などの実践をまとめ、伝え合い、交わり合い、より良いものにしていく場として開催します。このセミナーでの発表を機に、「お年寄りの表情が変わった」「職員の姿勢が変わった」「ケアが変わった」など、数多くの感想が寄せられています。

第9回目となる今回も、全国の実践報告を通して、報告者と参加者がともに学び、考え合う場とすることを目的とし、神戸学院大学を会場に開催いたします。

主催:気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー実行委員会
共催:神戸学院大学/特養・老健・医療施設ユニットケア研究会

プログラム

報告募集テーマ

3月13日(土)
セミナー1日目 139発表

3月14日(日)
セミナー2日目

時間	内容	時間	内容
11:50~12:00	開会(各教室にて)	16:25~16:40	休憩
12:00~14:05	実践リレー①(5発表)	16:40~17:55	実践リレー③(3発表)
14:05~14:20	休憩	18:30~20:30	交流会
14:20~16:25	実践リレー②(5発表)		

時間	A会場(定員450人)	B会場(定員300人)	C会場(50人)
10:00 ~ 12:00	<p>【アンコール報告】 ~好評だった発表のあれから1年、その後の展開を報告します~</p> <p>実践報告① 豊寿園(愛媛県) 「目指せ、その人マニア! ~誕生!雑用仕事人~」 (特養)豊寿園 ユニットリーダー 池田 愛</p> <p>実践報告② ゆうらぎ(兵庫県) 「ユニットケア導入から実践」 (特養)ゆうらぎ 施設部長 池田 英生</p> <p>実践報告③ こもれび(福岡県) 「家庭的であったかな食事を目指して ~ユニットでの食事づくり~」 (特養)こもれび 管理栄養士 奥園 絢子</p> <p>★インタビュー 九州女子大学家政学部 准教授 立松 麻衣子</p>	<p>【現場実践支援講座Ⅰ】 利用者の重度化を支える、 介護と医療の連携</p> <p>★パネラー はなのいえ(兵庫県) 代表 内海 正子 三豊市立西香川病院看護部認知症専門棟(香川県) 主任 山内 陽介 介護保険総合ケアセンターいずみの園(大分県) 特養事業部 看護課 主任 河野 和樹</p> <p>★コーディネーター 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授 西垣 千春</p>	<p>【地域の課題は地域で解決する! / 実践報告リレー】 住み慣れた自宅や地域で 自分らしく最期まで暮らし続けることを 支援する実践とは?Ⅰ</p> <p>実践報告① 埴山学区住みよいまちをつくる会(茨城県日立市) 会長 西村 ミチ江</p> <p>実践報告② 原田校区福祉委員会(大阪府豊中市) 副会長 戸谷 文代</p> <p>実践報告③ 西宮市社会福祉協議会東山台分区分区(兵庫県西宮市) 副分区長 赤石 貞子</p>
12:00 ~ 13:00	昼食・休憩		
13:00 ~ 14:30	<p>【現場実践支援講座Ⅱ】 Q&Aセッション 施設に暮らしを ~“その人らしく暮らす”ことを支えるために~</p> <p>高齢者総合福祉施設・虹ヶ丘(京都府) 施設福祉課長 上野 千鶴 特養・西ノ京苑(奈良県) 副施設長 松尾 智志</p> <p>全国コミュニティライフサポートセンター 二瓶 貴子</p> <p>特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 代表 武田 和典</p>	<p>【講演】 認知症ケア ~お年寄りの心と向き合って~</p> <p>グループホームふぁみりえ ホーム長 大谷 るみ子 (大牟田市介護サービス事業者協議会 認知症ケア研究会 代表)</p>	<p>【地域の課題は地域で解決する! 実践を紐解くディスカッション】 住み慣れた自宅や地域で 自分らしく最期まで暮らし続けることを 支援する実践とは?Ⅱ</p> <p>★パネラー 埴山学区住みよいまちをつくる会(茨城県日立市) 会長 西村 ミチ江 原田校区福祉委員会(大阪府豊中市) 副会長 戸谷 文代 西宮市社会福祉協議会東山台分区分区(兵庫県西宮市) 副分区長 赤石 貞子</p> <p>★コーディネーター 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 藤井 博志</p>

第1部門 一人ひとりを大切にするユニットケアを始めて変わった施設ケア(初級編)

ユニットケアに取り組むことになったきっかけや、取り組みの中で失敗してしまったこと、悩んだことなどの体験談、また取り組みから気づいたことや見えてきたことなどについての報告を募集します。

第2部門 ユニットケアを通して見えてきた3大介護のあり方と工夫

3大介護と呼ばれる食事・入浴・排泄は、従来に比べ、どのように変化するのか、ユニットケアならではの3大介護の変化と工夫についての報告を募集します。

第3部門 “食”の工夫で目指す、その人らしい豊かな暮らし

食事づくりや場づくり、買い物や外食、栄養マネジメントや口腔ケアなど、その人らしい豊かな暮らしを目指す取り組みの報告を募集します。

第4部門 これまでの暮らしの継続を大切にしたい住環境づくり

豊かに暮らすためには住環境も欠かすことのできない要素の一つです。これまで暮らしてきた環境をできる限り変えないための居室の設え、既存施設の改修や改築の工夫、また新型施設ならではの設えの工夫などの報告を募集します。

第5部門 ケアプラン作成や記録の工夫、施設内外との情報共有のすすめ方

ケアプランやケア記録無しには、個別ケアをすすめることはできません。その人らしい暮らしを支えるためのケアプランやケア記録の工夫、記録のとり方、また、記録を活用し、家族や職員が情報共有しながら築き上げる信頼関係づくりなどの報告を募集します。

第6部門 ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと

施設は、日々の暮らしを過ごすだけでなく、人生の最期の場となる時もあります。「施設での看取りのあり方」「医療機関との連携」「看取ることを通して築かれた家族との絆」など、施設におけるターミナルケアの報告を募集します。

第7部門 リーダーの悩みと工夫、育成と支援の方法

ユニットごとで、ケアの質に大きな差が生じることがあります。そのために、ユニットの要となるリーダーが悩み苦しむ時があります。そうならないために、リーダーを支えながら育てていく工夫や、リーダー自らの取り組みなどの報告を募集します。

第8部門 一人ひとりの暮らしを支えるためのチームケアや多職種との連携

一人ひとりの暮らしを支えるには、その方向性や情報を共有するチームの構築や職種を超えた連携が必要不可欠です。時には、施設を越えた連携や協働も必要になります。ケアに関わる専門職同士が協力しながら、利用者の暮らしを、より豊かにする取り組みの報告を募集します。

第9部門 ユニットケアを支える職員育成・組織づくりや管理者の役割

職員一人ひとりの気づきを大切にする新人教育や職員育成、職員それぞれが成長できる組織づくりの工夫、また利用者に近い職員が迅速かつ柔軟に判断し、対応できるような組織の改革、そのために必須となる管理者の役割などの報告を募集します。

第10部門 職員のやる気とやりがいを大切にする工夫とその評価

昨今、ケアの現場では人手不足が深刻な問題となっています。職員がやる気をだし、自分の仕事にやりがいを感じるための工夫や取り組みとともに、そうした職員の評価や方法などについての報告を募集します。

第11部門 地域での暮らしを支える施設の展開や、地域住民とともに歩む施設運営の試み

これまでの関係を断ち切らずに利用者一人ひとりの生活を支えるためには、地域の人とスタッフが一緒になって考え、行動することが欠かせません。地域の一員として、施設が取り組んだ地域との関係づくりや共同作業、逆デイサービスやサテライト施設の運営、これからの地域との付き合い方などの報告を募集します。

定員

800人
(※定員になり次第、締め切らせていただきます)

参加費

一般参加費 15,000円
ユニットケア研究会員・実践報告者 13,000円
※施設会員は3人まで、個人会員は1人まで割引適応。
※実践報告者は、1発表2人まで割引適応。

交流会費

2,000円

参加申込締切

2010年2月12日(金)

参加にあたっての留意点

1日目の実践報告リレーは、各教室にて自由にお聞きいただくことになります。つきましては、参加者が多い教室では立ち見となる場合もございますので、あらかじめご了承ください。参加者の皆さまには、申込締切後、教室別の実践報告リレー一覧をお送りいたします。一覧を参考に、各教室を移動してお聞きいただくことになりますので、ご承知ください。なお、2日目の各会場につきましては、事前にお申し込みいただきますので、参加申込書に第1希望から第3希望までご記入ください。

申し込みに関するお問い合わせ先

JTB東北法人営業仙台支店ECデスク
(ご連絡いただくのは東京の事務所となっております)
〒170-0013
東京都豊島区東池袋3-23-14ダイハツ・ニッセイ池袋ビル7F
JTBビジネスネットワーク気付
JTB東北法人営業仙台支店ECデスク
第9回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー係あて
電話:03-5949-1351 FAX:03-5396-8145
E-mail:sendai-ec@jbn.jtb.co.jp
(営業時間:土日祝除く平日 9:30~17:30)

内容に関するお問い合わせ先

気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー実行委員会
事務局/特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 担当:國分・高木
〒981-0932
宮城県仙台市青葉区木町16-30
シンエイ木町ビル 1階(C L C東日本内)
TEL:022-727-8732 FAX:022-727-8737
E-Mail:unit@clc-japan.com
URL:http://www.clc-japan.com